



安全報告書 2025

首都圏新都市鉄道株式会社



目次

	トップメッセージ	1
第1章	安全に関する基本方針	
	安全方針	2
	安全重点施策	3
第2章	安全管理体制	
	安全の確保に関する体制	4
	鉄道安全委員会の開催・安全確保総点検の実施	4
	安全内部監査	5
	安全統括管理者による安全に関するヒアリング	5
	ヒヤリハット情報	5 - 6
第3章	安全教育・緊急時対応訓練等	6 - 11
第4章	鉄道施設・車両の取り組み	
	設備・機器類の修繕と更新	12 - 13
	鉄道施設・車両の検査と整備	14
第5章	安全・安定輸送を支える設備と危機管理	
	駅・車内の安全	15 - 16
	運転・施設の安全	17
	鉄道テロへの対策	18
	自然災害への備え	19 - 20
第6章	安全のための投資	21
第7章	鉄道運転事故等の発生状況と事例	
	鉄道事故等の発生状況	21
	鉄道事故等の事例	22
第8章	お客さまと連携	
	サービス介助士の資格取得と教育	23
	こども110番の駅	23
	ご利用のお客さまへのお願い	23 - 25

トップメッセージ

「安全報告書 2025」の公表にあたって

首都圏新都市鉄道株式会社
代表取締役社長

渡邊 良



平素よりつくばエクスプレスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

当社は今年度で開業20周年を迎えます。輸送の安全を確保するために策定した「安全管理規程」に基づき、経営トップから現場まで一丸となり、安全管理体制の向上に努め、開業以来20年間、安全輸送を最大の使命にかかげて、鉄道輸送サービスの提供を続けてまいりました。開業20周年を迎えることができましたのは、当社だけの努力ではなく、弊社事業に対してご理解いただいております沿線地域の方々、そして日頃よりご利用いただいているみなさまのおかげであり、まさしく「みなさまと共に20年」であると考え、心より感謝申し上げます。

2025年度の「安全重点施策」は、地域の発展に貢献する鉄道会社として、引き続き「安全・安定・安心」な鉄道サービスを目指してまいります。そのためには、社員が一致団結して成長し、輸送の使命を達成していくことが不可欠であると考えております。また、設備の経年劣化、そして激甚化する自然災害をはじめとする予期せぬ危機に対応するため、予防保全とリスク管理の考え方を取り入れた設備更新計画の策定や、情報伝達手段の効率的で効果的な活用を推進し、「安全方針」のもと、それぞれの職務を遂行してまいります。

今後も、事故を未然に防ぐための取り組みを推進し、安全管理体制の継続的な見直しと改善を図り、関係機関との連携を深めるとともに、輸送の安全確保を進めてまいります。

この先も地域密着型の鉄道として、「共創」をキーワードに、沿線地域のみなさまと一体となり、沿線価値向上に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

安全方針

私たちは、すべてのお客さまにつくばエクスプレスを安心してご利用いただくために、役員から社員一人ひとりまで安全方針を常に念頭に置き、安全の確保を最優先とする安全意識の徹底を図り、一致協力して鉄道輸送の使命を達成してまいります。

安全方針

- 安全の確保はすべてに優先する
- 法令及び規定の遵守を徹底する
- 安全に関する提案や情報提供を奨励する
- 安全性向上のための投資を適切に実施する
- 安全管理体制は継続的に改善する



安全重点施策（2025年度）

2025年度の安全重点施策では、昨年度に引き続き、地域の発展に貢献する鉄道会社として、「安全・安定・安心」な鉄道サービスを目指し、それぞれの職務を遂行します。

また、開業20年目を迎え、予防保全とリスク管理の考え方を取り入れ、設備の経年劣化及び自然災害を含めた思わぬ危機に対応し、「安全方針」のもと、全社一丸となって各施策に取り組んでいくことを基本的な方針としています。

2025年度 安全重点施策 〔具体的な目標と取組計画〕	
1 基本的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「安全方針」の周知・徹底・見直し (2) ヒヤリハット情報（気づきの芽）収集方法の改善 (3) 安全統括管理者ヒアリングの継続 (4) 「本社と現業」等の緊密な連携の促進
2 教育訓練の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> (1) リスク管理に基づく教育・訓練の実施 (2) 運輸安全マネジメント制度の現業への浸透
3 適切な点検、保守、更新の実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) 施設・車両の適切な点検と保守の実施 (2) 経年劣化に対する予防的措置と計画的な設備更新の実施 (3) 委託業務請負業者に関する品質管理
4 さらなる安全対策等の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) ホームの安全性の向上に伴うホームの延伸工事（北千住駅） (2) 駅防災設備、総合基地防災設備の更新 (3) 大規模車体更新 (4) レール探傷結果に基づくレール削正と交換の実施 (5) 変電所の更新 (6) 信号設備の更新
5 鉄道テロへの対策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 鉄道テロ対策の推進 (2) 列車内警備の強化
6 事故・災害等に対する（異常時）対応	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事故・災害等発生時の初動体制の強化 (2) 異常時対応能力の向上に役立てる教育・訓練等の充実 (3) 自然災害に対する対応 (4) 事故・災害等対策の再確認

以上の「具体的な目標と取組計画」により、一層の安全性の向上を目指します。

安全の確保に関する体制

安全管理規程に定める社長をトップとする安全管理の体制は次のとおりです。

安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者	運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	乗務員の資質の保持に関する事項を管理する
施設管理者	施設に関する事項を統括する
車両管理者	車両に関する事項を統括する

鉄道安全委員会の開催・安全確保総点検の実施

つくばエクスプレスでは、輸送の安全最優先の意識定着とその取り組みの推進を図るため、安全方針の制定、輸送の安全に関する業務を統括する安全統括管理者の選任をはじめとする安全管理体制を確立し、安全・安定・安心な輸送を目指しています。

このため、異常時対応や事故防止対策などの検討を行うため、社長を委員長とした鉄道安全委員会を開催し、全社一丸となった安全に対する取り組みを推進しています。

また、夏季及び年末年始輸送の安全確保総点検等の機会を通じて、社長及び役員が、直接現場を巡視し、現場における取り組み状況を把握するとともに安全確保の指示を行うなど、現業部門とコミュニケーションを図ることで安全意識の共有及び向上に努めています。

さらに、2016年度から社長、役員及び部長が社員と風通しの良い職場づくりを目指し、自由に意見を交換し合う場として、チームTXミーティングを実施しています。



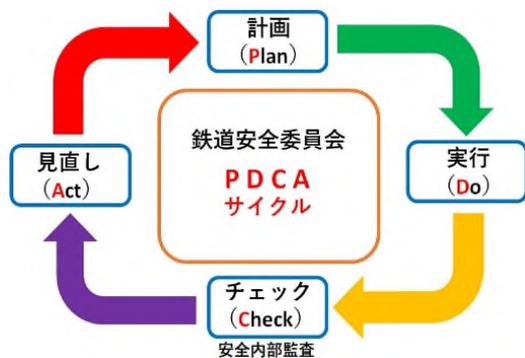
鉄道安全委員会



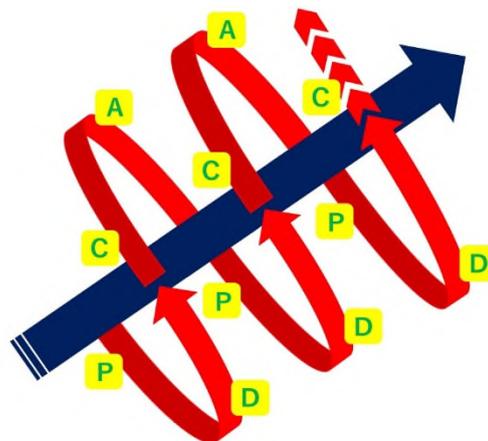
安全確保総点検

安全内部監査

関係法令、安全管理規程、その他社内規程類との適合及び安全管理体制の有効性を確認するため、毎年安全内部監査を実施し、安全性の向上を図っています。



安全内部監査の様子



(安全管理体制のスパイラルアップ)

安全統括管理者による安全に関するヒアリング

輸送に係わる業務の実施及び管理の状況を確認することにより、潜在する危険要因を抽出し、業務改善が必要な事項について、的確な措置を講ずるため、毎年安全統括管理者による安全に関するヒアリングを実施し、安全性の向上を図っています。



現業ヒアリングの様子

ヒヤリハット情報

ヒヤリハット情報制度

日常業務においてヒヤリ・ハットした体験や気付いたことなどを報告し、その貴重な情報を分析・整理して、リスクの軽減及び事故防止対策に役立てるように検討を行い、その結果を鉄道安全委員会に報告しています。

また、併せてその内容を全社員に周知しています。



ヒヤリハット情報 POST

・ ヒヤリハット情報に関する表彰

2024年度内に事故の防止・ヒヤリハット情報制度の浸透および定着に役立つ投稿の中から、他の模範として、鉄道事業本部長より表彰状が贈呈されました。



ヒヤリハット情報に関する表彰

・ 「ヒヤリハット情報」の改善

「ヒヤリハット情報」に副題を設け、「ヒヤリハット情報（気づきの芽）」とし、各職場へ想定されるヒヤリハットを集約した事例集（気づきの芽）を新たに設置しました。勤務中等で気づいた事があれば、該当する項目にチェックをするだけで問題点等の情報共有ができ、投稿者は複数の投稿方法から自分に合った方法を選択することが可能になりました。引き続き、投稿しやすい環境の整備を継続します。

第3章

安全教育・緊急時対応訓練等

社員の知識・技能の着実な習得と維持・向上を図って輸送の安全を確保するため、毎年度計画を定めて本社各部及び現業で基礎教育、専門教育、異常時対応訓練、労働災害防止等の教育訓練を実施しています。2024年度に実施した主なものは次のとおりです。

・ 安全マネジメント教育

運輸安全マネジメント制度の理解を深めるため、当社の安全管理体制についての教育を現業の新任所長及び新入社員等を実施しました。

・ 安全統括管理者による新入社員への講話

新入社員の研修期間中、鉄道の安全輸送、当社の安全システム等について、講話を行いました。



新入社員講話の様子

・ ヒューマンファクター教育

安全教育の一環として、ヒューマンファクターに関する理解の浸透を図るため、JR西日本安全研究所が発行した「事例でわかるヒューマンファクター」を活用し、各管理所等で教育を行いました。

・ 技術部安全大会

当社や各事業者で発生したトラブルや事故事例を共有し、安全作業の重要性を再確認するとともに、同様な事象の再発防止を図ることを目的として、施設部門、電気部門、車両部門の3部門合同で、技術部安全大会を実施しました。



技術部安全大会の様子

・ 安全講話会

国土交通省より講師として国土交通省大臣官房運輸安全監理官付・主任運輸安全調査官を招聘し、「運輸安全マネジメント制度」をテーマに、事故防止・安全確保につながる講話を行っていただきました。



安全講話会の様子

・ 指差喚呼体感ソフト・ヒューマンエラー防止ソフトの活用

ヒューマンエラーの防止を図るため、2016年から指差喚呼を行うことでエラー防止効果を体感できるソフトを活用していますが、さらに2019年にはヒューマンエラーを体感できるソフトを導入し、関係部署で活用しています。



ヒューマンエラー防止ソフトによる教育

・ 普通救命講習

心肺蘇生等が必要な緊急時に備え、AEDの取り扱いを含む「普通救命講習」を消防署員等の指導のもと実施しました。



AED を取り扱う係員

・ 防犯講習会

鉄道係員に対する第三者行為、及び不審者からお客さまの安全を確保するため、新入社員研修時に所轄の警察署指導のもと、刺又を使用し、刃物を所持する不審者等の対処法について講習会を実施しました。



警察による防犯指導を受ける係員

・ 異常時総合訓練

総合基地において「当社沿線にて震度6強の地震が発生、守谷駅～みらい平駅間（高架橋区間）を走行中の列車が、緊急地震速報を受信し、非常制動により停止をしたものの地震動により、1号車第1台車全2軸が脱線、架線と線路等が故障し、乗客数名が負傷した。」との想定で、訓練を実施しました。列車からのお客さま避難誘導・脱線復旧・線路復旧等の訓練に加え、高架橋区間を再現するため、防音壁を見立てた壁を設置し、はしご車による負傷者救助訓練を実施しました。引き続き、警察・消防と緊密に連携し、訓練を継続してまいります。



列車からのお客さま避難誘導訓練



訓練参加者の様子（開会式）



はしご車を使用した高架橋負傷者救助訓練



臨時速度情報地上子設置訓練



脱線復旧訓練



線路復旧訓練

・ 対策本部立ち上げ訓練

社長・役員を含めた「対策本部立ち上げ訓練」を実施し、本社と現業間における情報共有などの連携についても継続して改善を進めています。



対策本部立ち上げ訓練の様子

・ 飛来物除去訓練

「強風時に電車線等へ飛来物が付着した」との想定を基に、列車運行への影響を最小限に留めることを目的として、飛来物を安全かつ速やかに除去するため、模擬の飛来物を付着させ、飛来物除去棒を使用して除去する訓練を実施しました。



軌陸車を使用しての飛来物除去

・ 保守用車脱線復旧訓練

「保守作業中に軌道モ - タ - カ - 等の脱線が発生した」との想定で、特殊なジャッキを使用して、レ - ル上に戻す訓練を実施しました。



モーターカーの脱線復旧を行う係員

・ 夜間異常時訓練

終列車後、「地震や事故等により駅間で列車が停止した」との想定で、列車走行中の日中には行うことのできないトンネル内避難誘導訓練を実施しました。また、車両ドア故障時応急処置、ホームドア故障時対応等の各種訓練を通し、異常時対応能力を向上させました。



列車前面から避難誘導を行う係員

・ 浸水防止器具（ボックスウォール）設置訓練

内水氾濫による被害を最小限に抑えるため、駅の出入口などに設置する浸水防止器具（ボックスウォール）の設置訓練を実施しました。



浸水防止器具を設置する係員

・ バス代行輸送連絡訓練

災害等により輸送障害が発生した場合、代替交通手段の少ない守谷駅～つくば駅間のお客さまを救済することを目的に、バス代行を手配するための連絡訓練をバス会社とともに実施しました。



バス代行輸送連絡訓練の様子

・ 実物教材での実車訓練

総合基地に設置された実物教材車両を使用し、新入社員教育や乗務員見習教育を行っています。営業列車では訓練が難しいドア防護具装着、ドアコックの取扱い、座席シートカバー装着、非常通報器の操作等の訓練を実施しました。



ドア防護具装着訓練

・ 運転シミュレータ訓練

乗務員の対応能力向上を目的に、運転シミュレータを活用して車両故障等の各種トラブルや異常気象時を想定した模擬体験訓練を定期的実施しました。



乗務員による運転シミュレータ訓練

• 空気呼吸器訓練

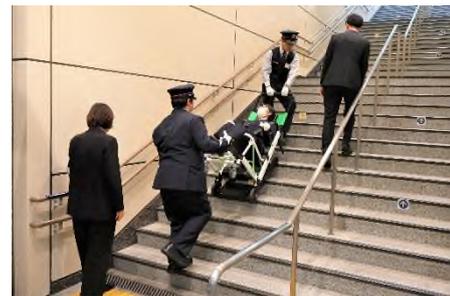
地下駅で火災等が発生した場合、お客さま救助の際に使用するため、空気呼吸器の設置が義務付けられており、当社では8駅に設置しています。万が一に備え実物を使用し、訓練を実施しました。



空気呼吸器を背負う係員

• 電動式階段昇降機取扱い訓練

自然災害等の影響による停電や故障によりエレベーター等を使用できない状況下でも、車椅子ご利用のお客さま、お身体の不自由なお客さまを限られた人員で安全・確実にご案内するため、容易に上下移動を行うことのできる電動式階段昇降機を各駅に配備しています。迅速に対応できるよう現業の社員等に訓練を実施しました。



駅における電動昇降機取扱い訓練

• 搬送トコ取扱い訓練

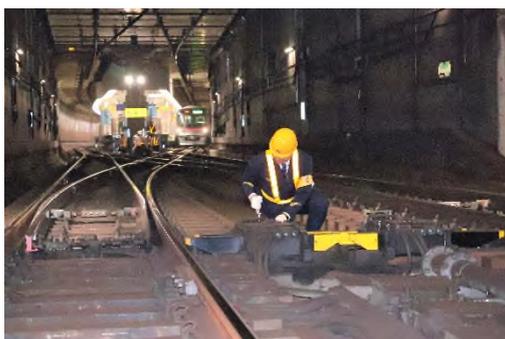
駅間に列車が停止し運転不能となった際に、お身体の不自由なお客さま等を安全に駅まで搬送する手段として、搬送トコを各駅に配備しています。使用手順を確認し、迅速に対応できるよう現業の社員等に訓練を実施しました。



搬送トコの使用手順を確認する係員

• 転てつ器（ポイント）手回し訓練

訓練用転てつ器にて、天候や営業線列車の影響を受けることなく、転てつ器手動転換訓練、降雪時の取扱い教育を毎年実施しています。また、終列車後、実際に秋葉原駅構内の転てつ器を使用し実車による訓練を実施しました。



手回し訓練の様子

安全で安心な鉄道輸送の維持・継続のため、設備・機器類の適切な修繕・更新に取り組んでいます。

設備・機器類の修繕と更新（2024年度）

ホーム隙間対策

国土交通省による「鉄道駅におけるプラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する検討会」において、車いすご利用のお客さまが単独で乗車できるよう、段差3cm、隙間7cm以下とすることが推奨されています。2021年度から車両に車いすスペースが設けられている乗降口についてくし状ゴムを設置^(注)し、対策を講じています。

2024年度に、浅草駅、六町駅、八潮駅(1,4番線)、南流山駅、流山おおたかの森駅(1,4番線)、守谷駅(2,3番線)、万博記念公園駅の28開口に設置しました。2025年度中に全20駅での設置完了を目指します。

(注) くし状ゴムの設置により車両とホームの隙間は、設置前約10cmだったものが、設置後約6.5cmとなり、国土交通省の推奨する7cm以下となりました。



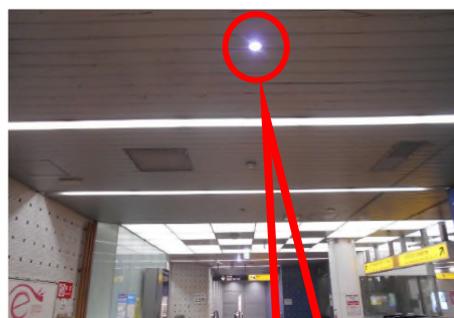
ホーム隙間対策前



ホーム隙間対策後

光警報装置の設置

火災を感知すると従来の音による警報に加え、光の点滅により異常を知らせる「光警報装置」を導入しています。これにより、警報音を聴き取りにくいお客さまにも光の点滅で火災の発生を知らせることが可能になりました。2024年度は、流山おおたかの森駅の設置が完了しました。



・ レール探傷検査

列車荷重を直接支持するレールは、日々の列車走行による疲労が蓄積し、表面や内部に傷が発生します。そこで、内部の傷を発見するために、レール探傷車や探傷装置を使用し、超音波による探傷検査を定期的の実施しています。

2024年度は、本線（年2回：全線）、副本線（年2回：全区間）、重要側線（年1回：全区間）において実施を計画し、年度内に全て完了しました。



レール探傷車

・ ロングレール交換

最長18.2kmにおよぶ継目のないロングレールを採用していますが、レール交換により、静粛性・乗り心地・安全性を高め、あわせて、保守効率化を図ります。ロングレールは交換時期を定めて計画的に交換を実施しています。

2024年度は、流山セントラルパーク駅～流山おおたかの森駅間の他、全線で12kmのロングレール交換を実施しました。



ロングレール交換の様子

・ 8両編成化事業

8両編成化事業については、2024年度に北千住駅ホーム延伸工事を着工し、引き続き2025年度も北千住駅の延伸工事を実施します。本工事は、島式ホームを秋葉原方とつくば方に20m延伸するとともに、延伸部分に屋根の取り付けを行います。



延伸工事中のホーム（北千住駅 秋葉原方）



延伸工事中のホーム（北千住駅 つくば方）

2025年 4月末現在

▶▶ 鉄道施設・車両の検査と整備

つくばエクスプレスの鉄道施設は十分な耐震性を有するとともに、軌道は、ほぼコンクリート構造となっています。

また、安全で安定した輸送を確保するため、施設及び車両について定期的に緻密な検査と整備を計画的に行っています。

・ 鉄道施設

高架橋、トンネル等の構造物、レールの状態の検査を目視、総合検測車やレール探傷車等により定期的に行うとともに、測定機器を営業列車に乗せての動揺検査も実施しています。また乗り心地の改善、レールの延命のため、レール削正を適宜実施しています。駅の建物検査、消防設備の点検及び、エスカレーター・エレベーター、ホームドア等の機械設備の定期検査も実施しています。



高架橋点検



線路内点検

・ 電気施設

変電所の変圧器等の設備、電車線路設備、ATC・電子連動装置等の信号設備、監視カメラ・電話設備・案内表示装置等の通信設備、駅の火災対策設備、照明設備について定期的に検査を実施しています。検査は、目視及び総合検測車等の計測機器により実施しています。



断路器取扱



発車標制御装置確認

・ 車両

車両の状態について外部から行う列車検査、装置を取り付けた状態で機能の確認を行う月検査、重要な装置の主要部分について検査を行う重要部検査、車両全般の主要部分を取り外して、検査を行う全般検査を、定期的に行っています。



台車の取付作業



機器の取付確認



空調装置取外し作業

駅・車内の安全

ホームドア

ホ - ムからの転落や列車との接触を防止するため、全駅にホ - ムドアを設置しています。ホ - ムドアの開閉は、車両ドアの開閉と合わせて自動的に行われます。



ホームドア

インターホン

全駅の2号車と5号車付近のホ - ムドアや化粧室等にインタ - ホンが設置されており、駅係員と通話することができます。



ホームドアのインターホン

化粧室内多機能トイレの
インターホン

AED（自動体外式除細動器）

心室細動を発症された急病人への有効な応急処置・救急活動を円滑に行うため、全駅の改札口付近にAEDを設置しています。



改札付近のAED

・ 車内への消火器配置

各車両には、消火器を配置しています。各車両ドアの上部に「消火器・非常通報器の配置位置」の案内を、また、消火器の配置してある壁面に「消火器」の案内をわかりやすいように標記しています。TX - 1000系・2000系は優先席の下に設置、TX - 3000系は連結部の横に設置しています。



TX - 1000系・2000系 消火器



TX-3000系 消火器



車内の消火器・非常通報器案内標記

・ 非常通報器

車内で急病人が発生した場合等の緊急連絡用に、非常通報器を車内へ設置しています。TX - 1000系とTX - 2000系は各車両2箇所、2・5号車の車椅子スペースにも1箇所設置しており、TX - 3000系は各車両3箇所に設置しています。ボタンを押すと、乗務員室につながり通話することができます。乗務員が対応できない場合は、15秒後に総合指令所につながり指令員と通話することができます。



非常通報器

・ 非常用ドアコック

車内で異常が発生した時に避難ができるよう、各車両のドア付近に手でドアを開けられる、非常用ドアコックを設置しています。

また、緊急事態等を通報する際は、非常通報器にて通報していただくよう、周知ポスターを作成し、車内に掲出しています。



非常用ドアコック

お客さまへお願い

非常用ドアコックは、緊急事態等を通報するものではありません。通報が必要な場合は、非常通報器にて通報をお願いします。



車内周知ポスター

▶▶ 運転・施設の安全

・ 自動列車制御装置（ATC）

列車の衝突や脱線等を防ぎ、列車の運転を安全にサポートする装置としてATCを採用しています。ATCは曲線やこう配、先行列車との距離を考慮した速度情報を列車が常に受信し、走行速度が定められた速度を超えた場合、自動的にブレーキが作動し列車の安全を守るシステムです。

・ 自動列車運転装置（ATO）

乗務員がお客さまの乗降を確認しドアを閉めた後、運転台の出発ボタンを押すと、列車は所定速度まで自動的に加速し、その後は定められた運転パターンで走行します。次の停車駅に近づくと地上に設置した機器からの距離情報を得て、車上で停止パターンを作成し停止します。このように運転操作がすべて自動化され、安全運行を支援するシステムです。

・ 非常時・異常時の通信手段

災害時の通信回線断線等、通信途絶・通話制限等が発生した場合、業務用の情報伝達手段確保を目的とし、地上設備被害の影響を受けない衛星電話を導入し、拠点駅や総合指令所等の現業機関に配備しています。また、乗務員用タブレット端末を導入し、列車無線装置に不具合が生じた時をはじめ、何らかの異常事象を発見した場合に、乗務員と指令員間で発生場所の動画像の送信が可能になるなど、迅速な情報共有の強化を図っています。

・ 完全立体交差

全線(58.3km)がトンネル・高架橋・橋りょう等であり、踏切事故の要因となる道路との平面交差はありません。



高架橋区間

・ 異常時支援用ワッペンの携帯

社員が、通勤および私用にて当社線を利用中に異常時の支援活動を行う場合、当社社員であることを明確にするために使用するものです。このワッペンは、常に携帯し、異常時には左胸に貼り付け支援活動を行います。



異常時支援用ワッペンイメージ画像

➤➤ 鉄道テロへの対策

目に見える警備を軸とした次のような鉄道テロ対策に取り組んでいます。

・ 駅構内へ監視カメラの設置と車内防犯カメラの設置

駅構内の状態確認と、防犯、防災、テロ防止等のため全駅及び総合基地に監視カメラを設置し、駅構内に「監視カメラ作動中」の表示を行い被害発生の防止を図っています。また、車内のセキュリティ向上を図るため、全編成の出入口上部に千鳥配置で防犯カメラを設置しています。防犯カメラの映像は、閲覧できる社員を限定する等厳正に管理しています。



・ 巡回警備の強化・訓練の参加

社員や警備員が警備腕章を着用し、警戒体制を敷いていることを見える形にして、巡回警備を行っています。また、警備員による列車内警乗を終日行うことにより、「目に見える警備体制」を強化・継続します。

その他、警察や消防、駅周辺地域と協力してテロ対処合同訓練に参加しています。



警備腕章



合同訓練の様子

・ 不審物等発見時の協力要請

駅構内等において、不審物発見の協力要請についてのテロップ、警視庁が作成したポスターの掲示を行っています。テロの発生を抑止するためには、不審者・不審物の早期発見が重要です。不審者・不審物等を発見した場合には、駅係員、乗務員、警備員へ連絡通報していただくようお客さまにご協力をお願いしています。

・ ネットランチャー・刺又・防護盾・防刃手袋の配備

鉄道敷地内における鉄道係員に対する第三者行為、及び不審者からお客さまの安全を確保するため、全20駅にネットランチャー・刺又・防護盾を配備しております。また、防刃手袋を全20駅と全編成の乗務員室に配備しています。

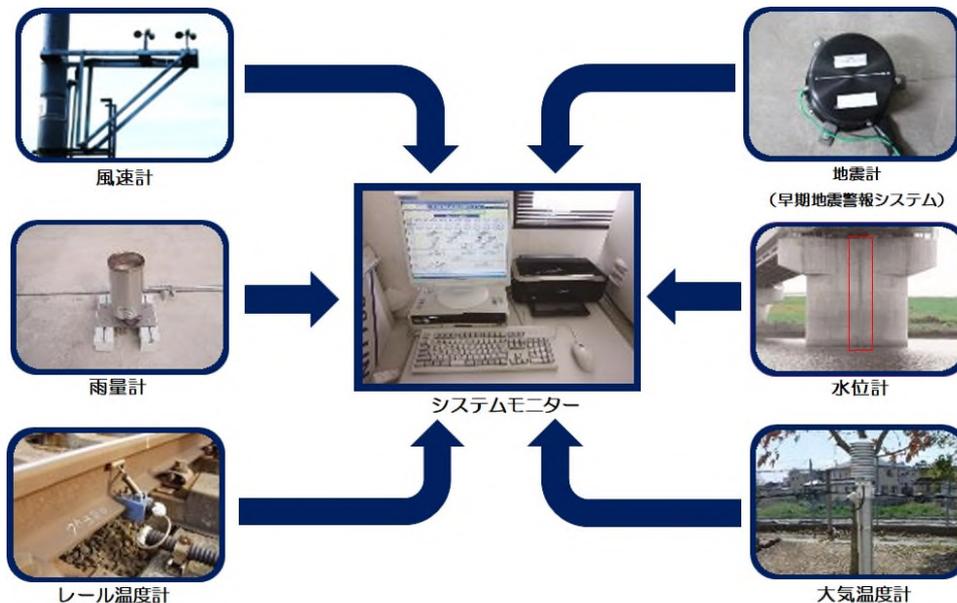


各防犯用具

自然災害への備え

沿線防災システム

自然災害による事故を未然に防ぐため、沿線に設置した風速計・雨量計・温度計・水位計・地震計の各情報を収集監視するシステムを導入しており、基準値を超えた場合には列車の運転を規制し、安全を確保しています。地震計については切迫する首都直下地震等に備え機能増強を図っています。



風速計...風速を観測し瞬間風速と平均風速を表示する機器

地震計...地震の初期微動（P波）を検知し大きな揺れ（震度5弱以上）が到来すると推定された場合及び震度5弱以上の揺れ（S波）を検知した場合、警報を発出する機器

雨量計...降雨量を観測する機器で1時間の単位雨量と降り始めからの積算雨量を演算する機器

温度計...レール及び大気のを観測する機器

水位計...河川の桁下水位を観測する機器

防雷システム（イオン放散式）

雷の被害から列車運行に関係する重要な機器・設備を守るため、沿線6ヶ所に設置しています。雷雲の発生により地表面に誘導されたプラス電荷を、電荷放散器で空中に放散し、放散された電荷が上空で保護シールドを構成します。雷雲と上空の放散電荷の間で放電することで、大地への落雷を防止しています。



極性反転型（PDCE）避雷針

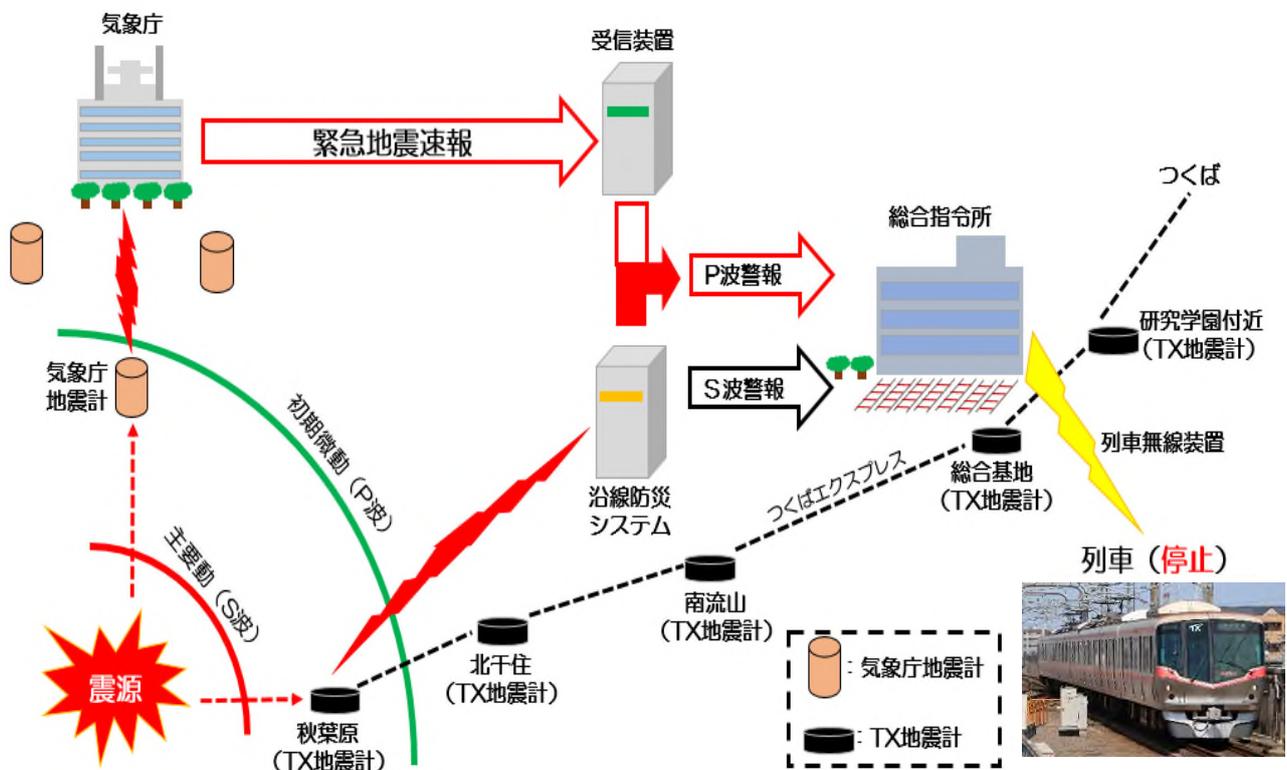
避雷針の上部からマイナス電荷を放出し、落雷を抑制します。南流山駅から守谷駅間に114基を設置しています。



・ 早期地震警報システム

当社線沿線には、地震の初期微動（P波）の観測から大きな揺れの到来を推定する機能を備えた地震計を5ヶ所に設置しています。これにより初期微動を検知し沿線に震度5弱以上の地震が到来すると推定された場合、及び気象庁の緊急地震速報で震度4以上の地震が到来する場合には、直ちに自動的に列車無線により全列車に停止指示の警報音と音声メッセージが通報されます。この通報を受け、乗務員は緊急停止操作で列車を減速・停止させ、被害の軽減を図ります。

【早期地震警報システム構成図】



・ TX版タイムライン（防災行動計画）

従来から取り組んでいた荒川等の氾濫を想定した「TX版タイムライン」を整備するとともに、TX版タイムラインを使用した訓練を定期的の実施しています。



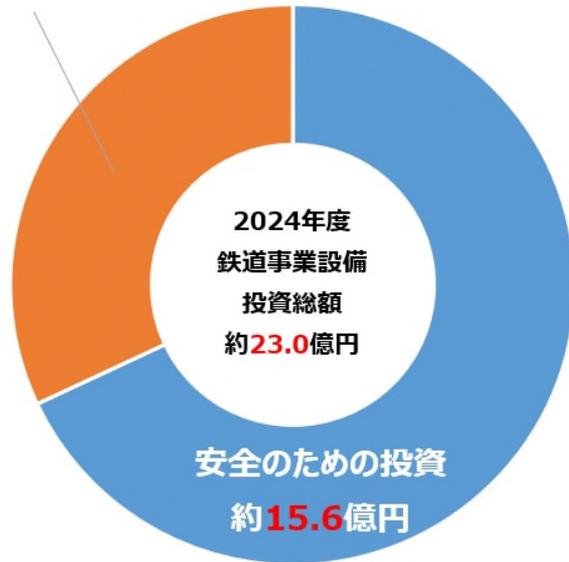
過去のTX版タイムライン訓練の様子

つくばエクスプレスでは、開業後も必要な安全投資を継続してまいりました。

2024年度は、8両編成化に伴う通信・電力工事、駅空調設備更新、資材管理システム導入など、約23.0億円の投資を行いました。

その他の設備投資

約7.4億円



▶▶ 鉄道事故等の発生状況

・ 鉄道運転事故

2024年度に発生した鉄道運転事故^(注)は、ありませんでした。

(注) 鉄道運転事故とは、国土交通省の鉄道事故等報告規則(以下、省令)に基づく列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故をいいます。

・ 輸送障害等

2024年度に発生した輸送障害^(注)は8件あり、お客さまには大変ご迷惑をおかけしました。原因別の内訳は、自然災害(強風)によるものが1件、設備不具合等によるものが2件、旅客に起因するものが1件、車両不具合によるものが2件、その他が2件ありました。

(注) 輸送障害とは、省令に基づいて国土交通省への報告対象となっている列車の運休、または30分以上の遅れをいいます。

・ インシデント

2024年度に発生したインシデント^(注)は、ありませんでした。

(注) インシデントとは、省令に基づく鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。

・ 行政指導等

2024年度は、国土交通省からの指導事項は、ありませんでした。

▶▶ 鉄道事故等の事例（2024年度）

・横取り装置不具合（流山セントラルパーク保守基地）

【事故種別】 輸送障害

【発生日時】 2024年9月23日（月）27時53分頃

【影響】 運休本数 上下線28本（区間運休含む）

【原因】 横取り装置制御器内のマイクロスイッチ不具合。

【対策】 横取り装置制御器と軌道短絡器の交換を実施し、横取り装置不具合発生時の復旧手順を定めました。

横取り装置とは、保守用車等が、分岐器を使わずに、別の軌道（レール）に移動できるようにする装置です。



横取り装置制御器外観



横取り装置制御器内部

・軌道内飛来物（みらい平駅付近）

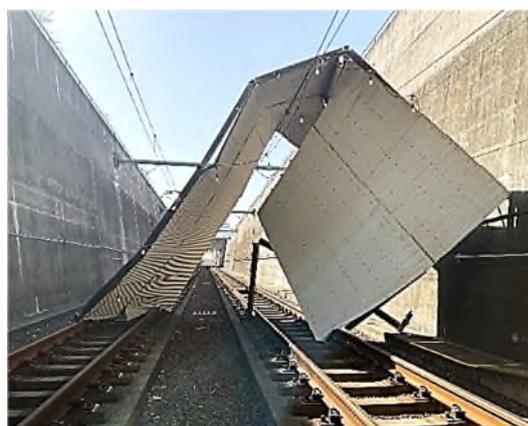
【事故種別】 輸送障害

【発生日時】 2025年2月13日（木）10時36分頃

【影響】 運休本数 上下線113本（区間運休含む）

【原因】 強風の影響により、近隣のプレハブ小屋の一部が上下線の電車線に跨ぐように覆いかぶさり（飛来）、停電が発生。

【対策】 今後、フェンスの高さ変更による、飛来物抑制効果の検討、沿線の建物や建設現場等から飛来する可能性があるものがないか、巡回時に確認を実施します。



電車線を支障したプレハブ小屋の一部

サービス介助士の資格取得と教育

お客さまに、安心して快適なサービスを提供することを目的に、特に高齢者やお身体の不自由なお客さまのご案内に必要な知識や技能を身につけるためサービス介助士^(注)の資格を取得しています。今後も引続き新規取得者を養成してまいります。また、新入社員を対象に、介助教育を実施しています。

取得者数は、2025年3月末現在、396名です。

(注) サービス介助士とは、公益財団法人(日本ケアフィット共育機構)が認定する資格で、有資格者は高齢者やお身体の不自由なお客さまのご案内に必要な技能を身につけています。



サービス介助士プレート付胸章



新入社員への介助教育の様子

こども110番の駅

公共機関として地域の犯罪を減少させるべく、全駅を「こども110番の駅」としています。

「こども110番の駅」では、こどもが駅に助けを求めてきた場合には保護し、こどもに代わって110番通報を行うなどの対応をとります。

また、犯罪発生時だけでなく、安全・安心な地域づくりに貢献するとともに、親しみのある駅づくりを目指しています。

ご利用のお客さまへのお願い

鉄道の安全・安定・安心輸送を確保するため、次の内容について、お客さまにご協力をいただくよう取り組みを行っています。

- ・ 駅ホームにおける安全性向上のため、お困りのお客さまへのお声掛け
全駅にホムドアを設置していますが、さらに安心してご利用いただくために、お困りのお客さまには駅係員がお声掛けを実施しています。また、視覚障害をお持ちのお客さまや何かお困りのお客さまをお見かけした際には、駅係員や乗務員にお知らせいただきますようご協力をお願いいたします。

・ 安全な通行の確保

駅構内の安全な通行を確保するため、お客さま同士が交錯・衝突するおそれがある箇所には、床面に通行区分サイン、柱に衝突防止ミラーを設置するとともに一部の駅では警備員を配備し、混雑時のお客さま誘導を行っています。また、歩行しながらのスマートフォン等の使用はお客さまどうしの衝突にもつながり大変危険です。トラブル防止にご協力をお願いいたします。



啓発ポスター

・ エスカレーターへの適正利用

エスカレーター内の歩行は、お客さま同士の接触や転倒するなど思わぬ事故のもとになります。エスカレーターをご利用される時は、ベルトにつかまり、黄色い線の内側にお乗りいただくようお願いいたします。



・ ホムドアへの適正利用

全駅にホムドアを設置しておりますが、列車へのかけこみやホムドアから手などお身体を出すことや、ホムドアへの物の立てかけは、大変危険ですので、おやめいただくようお願いいたします。



注意表示（ホームドアに掲示）

・ かけこみ乗車はキケンです

発車間際のかけこみ乗車は大変危険です。ホムでの転倒やドアに挟まれる思わぬ怪我をされたり、お荷物が挟まれることもあります。また、列車の遅れの原因にもなり他のお客さまのご迷惑になります。ドアが閉まりかけたときは無理をせず、次の列車をお待ちいただくようお願いいたします。



かけこみ防止表示



啓発ポスター

・ 車両ドア引き込まれ注意

車両のドアが開くとき、お客さまの鞆などが戸袋に引き込まれることがあります。ドアが開く際には鞆などをドアから離して、引き込まれないようにご協力をお願いいたします。



ドア引き込まれ注意ステッカー

・ 駅構内への風船の持ち込み

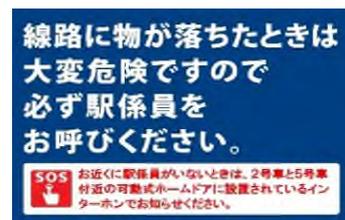
浮遊した風船が鉄道の電線などの設備や車両に接触すると、列車が運行できなくなるなどの影響があります。駅構内に風船を持ち込む際には、絶対に離さないようお願いいたします。



パンタグラフに絡まった風船

・ 線路に物が落ちたとき

線路に物が落ちたときは、お近くのインターホンで駅係員をお呼びください。線路に下りる行為は大変危険ですので、おやめいただくようお願いいたします。



駅係員呼出し表示（ホームドアに掲示）

・ 列車の運行を妨害する行為を見かけられたとき

列車への投石、障害物の放置などは往来危険、器物損壊などの犯罪行為です。このような行為を見かけられたときは、駅係員、乗務員、警備員、警察にご連絡をいただくようご協力をお願いいたします。

・ 線路の近くでボールなどを使用するとき

ボール等が線路内に入ると列車の運行を支障する恐れがありますので、ご注意ください。誤って入ってしまった際は直ちにご連絡をお願いいたします。

・ 体調が優れないとき

体調が優れない場合は無理をせず、駅係員、乗務員、警備員にお知らせください。付近に係員等がない場合は、お近くのインターホン・車内非常通報器にてお知らせください。インターホン等の詳細は「第5章：15・16ページ」をご覧ください。

20th ANNIVERSARY since2005

当社の安全報告書をご一読いただき、ありがとうございました。
この「安全報告書」は、鉄道事業法第19条の4に基づき2024年度末現在のつくばエクスプレスにおける安全確保の取り組みや、安全の実態をまとめたものです。

今後の安全に関する取り組みや報告書の内容について、ご意見・ご感想をお寄せください。

TXコールセンター

TEL：0570-000-298（通年9時～19時）

ホームページ：<https://www.mir.co.jp>

編集：首都圏新都市鉄道株式会社
鉄道事業本部
安全総括部 安全推進課



過去に発行した安全報告書の表紙です。